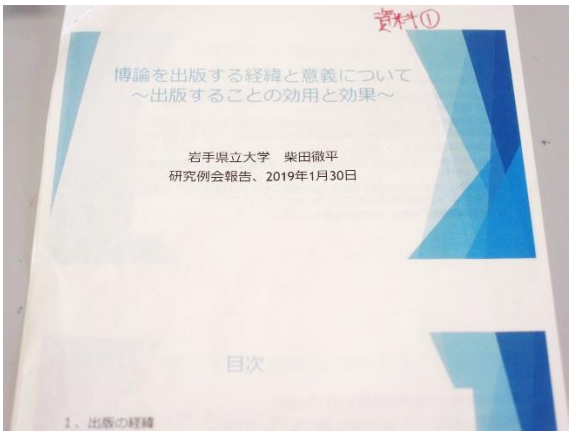
2018 年度第 5 回研究例会

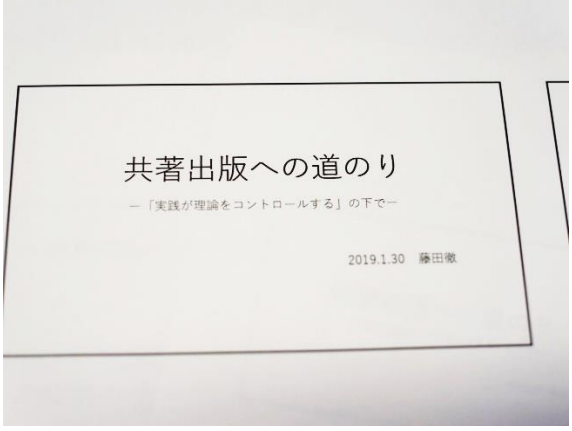
日時：2019 年 1 月 30 日（水）14:40~16:10
会場：社会福祉学部棟 301 講義室

＜第 1 報告＞
報告者：柴田徹平講師
題名：「博論を出版する経緯と意義について―出版することの効用と効果」



科研費の研究成果公開促進費に採択され、2017 年に博士論文を元にした単著『建設業一人親方と不安定就業』（東信堂）を出版された柴田徹平講師より、出版の経緯及びその意義についてご報告を頂いた。科研費申請書を書く際に意識した点を詳しく紹介頂くとともに、出版したことによるご自身の研究の広がり、論文執筆意識の変化についても説明が行われた。

＜第 2 報告＞
報告者：藤田徹教授
題名：「共著出版への道のり―『実践が理論をコントロールする』の下で」



2017 年に共著作『「実践」が<理論>をコントロールするのであって、<理論>が「実践」をコントロールするのではない』（ブイツーソリューション）を公刊された藤田徹教授より、共著出版の経緯や執筆時の注意点についてご報告を頂いた。本書を完成するまでに研究会を繰り返し、その後も共著者の専門領域のすり合わせを図ったことが説明された。学際的なテーマを扱う本書を著す上で、社会（科）学系と社会福祉学系のメンバーの間で共通認識を確立する困難があったこと、しかしその意義の大きさについても指摘が行われた。